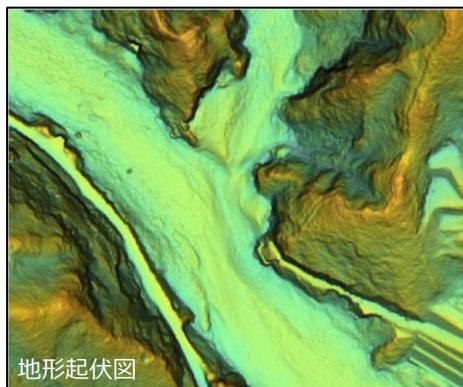
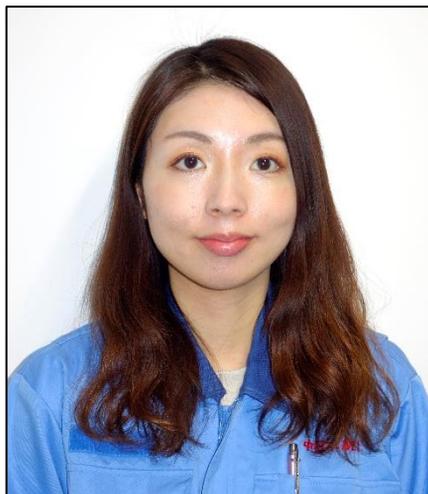


<業務の目的及び概要>

この業務は、天竜川中流部及び天竜川支川における河川の維持管理や河川計画の基礎資料作成のため河川測量を行いました。水中部も含めて航空レーザ測量や現地での河川深淺測量を行い、地形データを作成し、河川横断図を作成する「航空レーザ測量技術を用いた測量業務」です。



地形起伏図

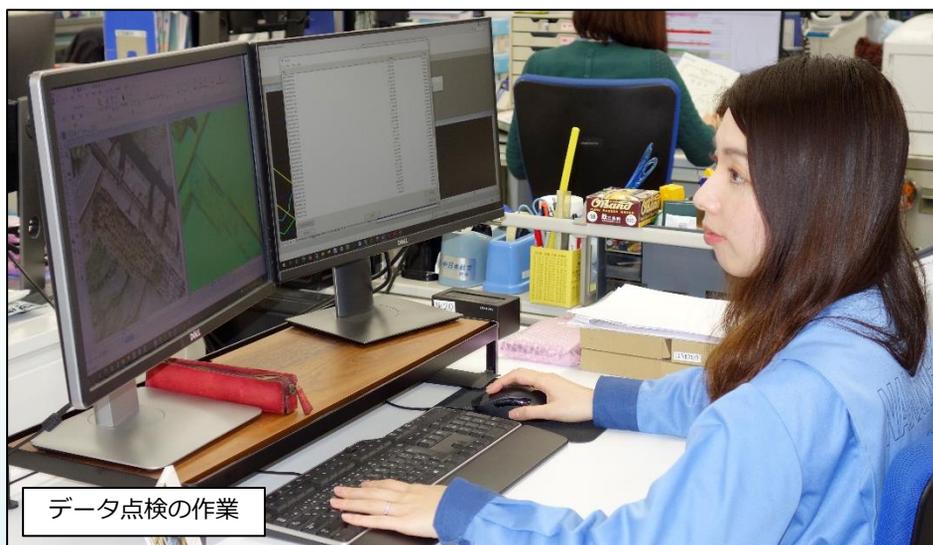


写真地図

最新の測量機器を使用すれば、水中部の地形データも作成可能です。

妻藤 希実子(さいとう きみこ) 2015年入社

入社当時は別部署への配属でしたが、部署異動により、2018年から航空レーザ測量業務に従事しています。河川業務以外にも、森林や砂防といった様々な分野の航空レーザ測量業務に携わっています。



データ点検の作業

・私の役割

航空機により取得された、航空レーザ測量データをもとにお客様へ提出する資料を作成しています。この資料が、河川の維持管理や今後の河川計画に大きく関わってくるため、間違いがないように責任を持って資料を作成しています。

・測量業を選んだ理由

私は、農学部で測量を学び、学んだ知識を活かしたいとの思いから測量業を選びました。学生の頃に得た知識だけでは足りないと感じることも多いですが、疑問点や不明点は自分自身で調べたり、先輩や上司に質問をしたりしながら、知識を深めて日々勉強しています。

・未来をつくる若手技術者の皆様へ

業界全体を通して、依然として女性技術者は少ないと感じております。測量は現場作業があり、女性では難しいと思われる方もいるのではないのでしょうか。実際は、私のようにデスクワークがメインの仕事もあります。そのため、テレワークで作業をすることも可能です。様々な働き方ができるので、測量業界が選択肢のひとつになれば幸いです。

発注者:長島ダム管理所

受注者:中日本航空株式会社

<工事(業務)の目的及び概要>

本業務は、長島ダム貯水池内の貯水池容量及び堆砂状況を確認するため、堆砂測量を実施するものです。主に、航空レーザ計測及び音響測深技術により地形データを取得し、取得が困難な箇所は現地(地上)で測量を行います。



山本 敦也
2020年入社



航空レーザ測量の作業状況



ラジコンボートによる音響測深技術と河川測量の作業状況

・現場での私の役割

測量の精度を高めるために必要となる基準点・検証点等の測量を現地で行い、社内では取得データの整理や解析等を行っています。自然地形は刻々と変化するため、現地状況の把握、臨機応変な判断が必要です。その状況に応じた最適な測量手法の選定を行い、安全を最優先する姿勢を大切にして業務に取り組んでいます。

・測量業を選んだ理由

大学時代、森林生態分野の研究をしていた際、従来の調査手法が、レーザ(LiDAR)技術を用いた詳細な三次元の測量に置き換わっていることを知り、衝撃を受けました。そのことをきっかけにレーザ測量技術に興味を持ち、計測から解析処理・成果整理までの一連の測量作業に触れたいと考え、当業種を希望しました。

・未来をつくる若手技術者の皆様へ

現在、リモートセンシングの発達やGIS(地理情報システム)の普及によって、空間情報の利用が加速したことで、測量で扱う領域が広がりを見せています。そのため、現在の測量では「様々なセンシング技術を駆使して計測する」また「計測によって様々な分野の仕事に関われる」という面白さがあると感じています。

分野を問わず若手技術者が増え、互いに刺激し合う仲間として一緒に仕事ができることを期待しています。